

20 我が街 船橋を歩く—神社仏閣(18) 西向地蔵—

29期 仲田 元昭

前回ご案内の稲荷神社より徒歩5分程にある、西向地蔵をご案内します。ここは、かつての船橋宿の西の入口で、東金街道(御成街道)と旧道の浜田道との分岐点でした。

「西向地蔵」

西向地蔵のある場所は、江戸時代御仕置場(処刑場)があったともいわれています。品川宿の鈴ヶ森刑場も宿の入口にありましたが、船橋宿の刑場も、江戸からの宿の入口、旧九日市村(現在の船橋本町)の西のはずれになります。また、この場所は徳川家康の命により慶長19年(1614)に造成された東金街道の起点ともいわれています。



正面、祠の中に西向地蔵と左手前縁結地蔵

西向地蔵は、地元「さんや村」(市内最古の地蔵菩薩の正面右下に刻まれている村名。現在の本町1・2丁目付近)の人達が、処刑された罪人の供養のために、ここに建てた地蔵菩薩で、西向きに置かれていることから、地元では西向地蔵と呼ばれていました。

「祠の中の地蔵菩薩と念佛塔」

祠の中には五体の石像(写真下)があります。一番右側(写真⑤)の地蔵は、江戸幕府四代将軍・徳川家綱の時代である今から360年程前の万治元年(1658)に、市内最古の石造地蔵菩薩を造立した事から始まります。

その22年後の延宝8年(1680)に阿弥陀如来像(写真②)が造立され、その後元禄9年(1696)に聖観音像(写真④)が、享保6年(1721)に笠付念佛塔(写真③)が、そして一番左の延命地蔵(写真①)が、享保14年(1729)に造立されました。

以来地元の人々によって今日まで大切に守られてきました。



①延命地蔵 ②阿弥陀如来 ③笠付念佛塔 ④聖観音 ⑤市内最古の地蔵菩薩

「21 我が街 船橋を歩く 神社仏閣(19) 船橋日枝神社」に続く「2022-8-1 寄稿」